た

ロレタリア人民の決意を打ち固め 日比谷野音にあふれる鳴う人民 は、アジア、太平洋魔安保の全面

三、再四、権力の体勢を突き崩し

首都東京においては、日北谷野

% 行 所 現 代 社 東京都文京区本郷2・15-14 島葉ピル 網集第行人 田中五郎 標語東京 (82) 7987 接着 (東京) 142518

4.97 40.9 5月1日 78年号 【18回 800円】

関西支社 前東成区東小台1の1

革命的労働者団結せよく

全国反帝高校生評議会連合機関誌

現代社出版部

テ戦士

創刊号

(社) 解放派



突出と、その強力な波及を通したから対決しつつの、ストライキ剛

した我々は労働者大衆の自のも ※解体」戦行さ、我々に、この後継部系の全体集に参加・実践的力ももとす、又ごの

学生戦線においても、東北大法

する闘争の上にたって、3時より

本のでは、 のでは、 のでは

于五百の結集をもってからとられ

この音楽がは、中生機能に対し、公司知会的に関うない。 かられる。 1 か

ストライキ決紀を眷歸・沖縄を課 日においては、全金神輿においの結集をもって惣親し、更に、

全原労の屋休み職場集会を含め、

なり本土ー沖縄総体の帝国主義的 事体制の日本への持ち込み(また

らない所へおち込んでいる。

しかも、その戦闘性のメッキご

だから、彼らは、七一年四月二

を進めて行くべきだろう。 を確認した可能なかぎり広い共闘

「審議派」の破産をこれで行く事

なお、この祭行委は「返還派

命的生み底し参見つめて誘い抜いその大衆的波及と、労働組合の革

彼等の「沖縄返還論」なるもの

この日、広島、関山の地におい この日、広島、関山の地におい 国たる闘争や展開した。

対象とよって、国連にあってのでは、 対象とは、「基準にあるのでは、 のでは、「基準にあるのでは、 のでは、 ので

たおいて、第12波ストライキが が

て持たすかという事にのみ頭空使 持たず、ただただ組織をどうやっやってこえて行くかの展望を全く (被等の決戦からの逃亡) をどう 彼等は、七十年安保闘争の敗北 をどうやって、関歌するか、とい し、単に「セクト的利害」の破産

包囲・攻撃せよく 動で政府中松ー会国政治諸機関を 学生ゼネストを表現し、4・28を

上回る全国をおおう戦闘的大衆行

5・19沖縄ゼネストと連帯し、 会国の同志諸君ノ労働者学生諸

ているにすぎない。

は 中枢空側圧と、「返還器定し調印 ・ おおいつくす労争の戦列で、政府 ・ おおいつくす労争の戦列で、政府

果だった。大きのでは、大い、総力をあげて、大きのでは、大い、総力をあげて、は、国の同志は、大い、総力をあげて、は、国の同志は、大い、総力をあげて、

月初旬の返療協定調印粉砕や月担四・二八間争は、五月下旬から六 して全国的秘法起として聞い抜か 七十二年沖縄返還を目前にした 28全国で大爆発 首都二万四千で決

 \exists

乱。闘争を背

という。 一次の対決や放棄し、四 を引き出す事なく、カンバニア翻 を引き出す事なく、カンバニア翻 の中から翻いの展望 を引き出す事なく、カンバニア翻 ののである。 日の沖縄闘争は、北接道から九州 が始まっていった事である。

射が闘う人民を襲った。だが、緩

り返し、独固なスクラムの飲料を この中で、三里塚闘争以来、

組み直し、官邸更には、防衛庁前

回阻上』として社会の原本が治理「等、そんて政治的には東ア神学以上の文は、現在のアルショア社会の 在国本が海る公共、英地国等、 として政治の「という、 のでは、現在のアルショア社会の を巨アシア人民と、日本アロレーの文は、現在のアルショア社会の を巨アシア人民と、日本アロレーの大学を た。各地方、各県の粒核課題を まで全国総決起として聞い抜かれ 三里塚歴民の聞いを前衛

選派」の破綻を越えて、本土丁沖民の集会は、「沖縄収穫派」や「寮 **國一帯が、翻いの息吹きにあふれ** 等を軸にして、約二万四千の総決 音に、反戦青年委員会、全共闘、

縄を貫く労働者権力の検立へ向け

ッケイな姿を浮き彫りにしていった。

金学連・内域委員長の万針接起・散観的デモンストレーニの兼気にある。 て突き進もうとする圧倒的人民の

「レーションに移ったる集会の後、

を最後治費後しないたのである 水等の弾圧を繰り返したが、我々

4.28

全日本

断

調

印阻

止の赤い火柱へ

学生、高校生戦祭において

年四月二十八日の闘争の卒 | 沖縄返還」 ②粉砕しつつ、本土ー

一般線派の任務は重大である。

1

るいて、一定の「勝利」が、一体語の たが、その「勝利」が、一体語の に関利」なのかが、全人民の前に

表しているにすぎない。ところが なしているにすぎない。ところが ・ を小市民的な部分的な手直し受要

随風すべる

とりくむ事で、あらゆる工場。学 は、とりくむ事で、あらゆる工場。学 → 一 三八月返悉語を調田庭止 一へ向

関の中に闘争組織の建設、

数の策動をハッキリ祭蹊しておか 調印阻止へ前進するためにも、七

まずまで明らか

社・共統一戦線は、地方選ぶに

の路線の手の内に陥らされて、た

五月間係の方針は次のようにな

返還路線」はアルジョアジ

この大道の進み、会日本プロレ という事を歴史は非情に示し 人民に革命の展望をさし示

一の「新全総」路線の沖縄への導 圧殺に狂奔し、日本プルジョアジ 全軍労ストライキの革命的系属の

核派の「賽道論」に外ならない。 ごみよう)。

ころした社共の風限と同様に、

質的に変らない。

は「工場―姓区」の課題を沖縄関 □拠点を 轄として、地区的 連合

白産別行動委連合の発展をク

ただ、一定の「戦闘性」の外観

その焦点が「沖縄返還」である

近辺においても、ガス鉄乱射、放モ経了の場である明治公園の入口

(二)組合総体の革命化の推進、全国地域 一化として発展しようとしている。 息吹きが組織化され、それが 組

前旦や

"工場―学園からの叛

力によって指進され、貫徹されて

の動いは、工場における反合理化 の動いは、工場における反合理化 く。従って、七一年四月二十八日 である。 だって、七一年四月二十八日 である。 はなどの暴行を行った。 現在、京浜安保共闘・ 現在、京浜安保共闘・ ・赤魚茶

橋や貫くソヴエットの樹立をク」の七二年沖縄返還粉砕ク本土-沖 化と国内の帝国主義的改編のため それは、戦略的なスローガンと

十年代階級闘争の本格的な響発と 「沖縄波震協定」の粉砕闘争が七 共三下旬から、六月初旬におけるこうした願いがあって初めて、

そして、そういう問いとして、

曹高隆・町〜巻の全国建域闘争 なった諸覇売の豪東とこの課券の | 「勝利」なのかが全人民の前に暴力が指の写示県小山の三里接辞 | 1年に入って、ますまう明らかと,が、その「勝利」が、一体態の|

● かった新郷産の様をとの業等の「助利」なのかが全域の制度 「職業ので、中・リ農産しておかさ、関した様に、推進のロシャリア」 「はならぬ。」 トのでの問題にと議せたがしい は、共戦・観察に、終り返送に、関いの、概念を奏出したのである。 おいて、一定の「最利」を図めた。名。 おいて、一定の「最利」を図めた。名。

派闘争もその一つの妻與である。

全国反戦・全国全共闘は、

つの傾向としてある。

(三) 社・共の反プロレタリア的「返還路

にはいりながら、党派に示される

中核派の『奪遠論』―「国民主義線』を根底から巉破し、前進せよノ

簡単にかの後の多型機なる者に到着をもった。ままれるなられた。 中校派の「常環論」「国民主義」の様式される自動の の様式の「常環論」「国民主義」の様式される自動の の様式を対し、前進せより「総典とことは まままを変奏

して、展開されねばならなかった

一九七一年四月二十四日 一九七一年四月二十四日 一九七一年四月二十四日

不当捜査に抗議す

出止し、三里塔農民 切り拓く人四月及券♥の進程や革

いることに抗する国鉄の革命的なが除列は、道路を埋めつくすジグ 探繰の被山公園を抜け、

親の今国的諸化、数及帝もって、 帯し、第二次参照以用や野神しよ が成してゆくとと●国表十六万五 うく」など、七本の美会スローガ が成の今国的諸化、数及帝もって、 帯し、第二次参照以用や野神しよ の作用上裏書をテロ上国を民間の 分字を上移った。

各地域住宅開争の新合を進した戦。る」ことで宣言「三里城決戦と通りの場合と、国鉄労働者の反合闘争・し、沖縄・三三域に全力で決型との三里城闘争の一定の困難・で立ち、国鉄反合闘争の耐量を

製力災起空もって政治中枢に迫る潜から「全国での規范に呼応した

小山 4.25

> 砕石輸送阻止に起つ 5・6月三里塚強制代執行

ため
ョンと駅前広場人民集会を貫徹
争を機能してきた経過と酸素が次 に向け、勝利の展塞を突き出す 明し、さらに三里孝要行隊の村上収用粉砕の歸いに立つ」決蔵学表収用粉砕の歸いに立つ」決蔵学表

秋月同志奪還

つ 在留期間短縮処分は「出入国管理・ 、関う中国人資年測道員は四月二〇 L

にして不可分の領土である 現在台湾は、中華人民共和国の神聖

・ の民主守護・不正選挙和理断の民主守護・不正選挙和理断の民主守護・不正選挙和理断・ である。・ である。・ である。 ではなる。 ではなるとのではなる。 ではなる。 では

である。中国人が、中国人として に 不倡歌天の歌、民族の裏切者 で、不倡歌天の歌、民族の裏切者

在日中国人・朝鮮人に奴隷の生活

120

ていないうちから、既に偿に対し

(1974年)、上交会と、 (1974年)、日本会社会、 (1974年)、 (1974年) (1974年)

連続闘爭を闘い

L

五月入管法粉砕の鬪いの前進を!! ハンストに突入した劉君と連帯し、

許可念かちとれく

を売べるのな日本へはやったまかれる。年間を吸いる自分のできた。それから2年だった。 によりなうまだ。 は第1日の情報を対して、「新登集業」を対する。「毎日の住職間」 ※教育局はよう。「一人大震」 版書がた。「日、信息課業」と 日の情報を大き、「一人大震」 版書がた。「日、信息課業」と を表したけった。そのもの事だと、《信日報》き のよったりの「毎日、処分を表げて、大傷目報とき ことがりの「毎日、処分を表げて、大傷目録と、核っした。なったし、 なったりの「毎日、処分を表げて、大傷目録に、核っした。なったし、なったし、

てきた。それから七年たったいま共和国から父のいる日本へとやっ

44 2019

劉朴三選

一昌君 支票

0

11一日に東大安田藩堂前で千名に更に劉君のピデ期限切れの四月

を、希望を明るい間で語りかけた。 まっすぐに未来今見つめ様に理想 は まっすぐに未来今見つめ様に理想 に まっすぐに未来今見つめ様に理想 に を、 希望を語った。君は ら

に断も切らせたものは誰なのか。 その李智成君に理想、希望、

乘

機はいま、彼の気持が痛いほど

殺二周年・劉斯昌君支援・入管法 り日比谷野音で「李智成君抗議自

・人民大集会] がもたれたの

動記周年李記念し日黒公会堂にお いて劉君支援・入管法粉砕の集会

3

から第三次ストに突入した全軍労 集会は、前日の十四日午前塚時

28本土・沖縄を貫き 4.15 者権力樹立の胎動を突

人民の苦俗の歴史にふまえ、実力沖縄人民の戦前・戦後を貫く沖縄

日米共同声明系要以来、沖縄を

き出し、このストを拠点に自衛隊である」と全重労争ストの復編運動を乗りこえた政治ストである」と全重労ストの意義を突っている。

の沖縄派兵阻止の関いへの決起を

て あいさつを送りたいと思います。 とを 全軍労牧務支部青年部より、こ 機能 た全ての関う仲間のみなさん/ 機能

一の吉波漆差異氏があいさつに立 可会の下、まず、沖縄救援センタ 東京地区反較連絡会議の二名の

労牧港支部青年部からメッセージ

・1 八の金田的火柱を吹上げてゆ つ闘いを受けて72年沖縄返還、返 として開催された。

つぶすことによって沖縄の大衆運重要であり、又、全軍労の組織を

は、これや乗り率えて輝う組織や爆楽 である作品は、東古中働者の任務だ 関の悪圧は、今後の全面の開発を 、変変が多上で重な変素を与えた。 と思います。にあるけ、物資付助 は、数の業圧は、今後の全面の開発を は、まず、これで、数字付助 である。 中でそれを突破し、徹底的に飼いちされています。その様な状況のちされています。その様な状況の して激しい怒りを覚えると共に、

5·19 沖縄ゼネスト 連帯返還協定 中央総決起集会 5 · 19

清水谷公園 ・全国全共闘ほか

となく聞いの輸は広がって行っ

競行した。村八分の恫喝に屈する - 内会の支配を通してのしめつけを - 本市で の町会に 見合った町 本 (場合と歴民が共同ので支配すべて 「敷地の所有権は大っても占有場で 「敷地の所有権は大っても占有場で 「敷地の所有権は大っても占有場で 「敷地の所有権は大っても占有場で 「東地の所有権は大って 状況を迎えているのよう

車

マルの敵対を許さず先頭で闘い抜く--

4.26第四

一波闘

(2) 1 (1)

一里塚現闘本部から

0

アピー

李智成君を悼み、僕に対する 」処分に抗議して経食する 道

てある。

である。

できる。

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

(**)

質金体系粉砕く、戦制の超少をく 組は統配合合理化粉砕く い抜く中で、日本プラント協会労業行するアジアにおける日本帝国・四・二八沖納闘争を全国的に関 印ということをもって、まっます

独占資本の輸出を一本化 独占資本の輸出を一本化 日本プラント協会労組 第会の予賞で作られたジントの多組との共同に接げ、人事略特性 前間に接げ、人事略特性 が開発している。そ の内容は、数配名部を が同に接げ、人事略特性 に関いてあり、この スローガンの下に、ジェ トロの労組も、四・二八

4.28ストラ 四月一九日から、部分 的無期限ストを関い 抜 き、四・二八に全体スト をかちとった日本プラン をかちとった日本プラン

五月沖縄返産協定調印実力

会開かる―仙台 社会党反戦派演説

本語の対象によった。 場しつつあることの意義に大き、南部集会がもたれた。 場しつつあることの意義に大き、南部集会がもたれた。 を加りできる。 名地区集会、20日中部、北部、千 名地区集会、20日中部、北部、千 名地区集会、20日中部、北部、千 名地区集会、20日中部、北部、千

デモ李貫徹、日共、華マル等の小 28の一大突破日を切り拓いて聞い 斉唱の後、国労会館までの戦闘的

成田市議選

おりなる力を をそう

統

地

方

選

4・24中央集会に寄せられた全軍 なお、次に近・二八中央集会に なお、次に近・二八中央集会に 下の労働者の結集でもってピケ

印風止、中央線決超集会に結集し るため日米両支配者は、まず基地72年沖縄返還協定粉砕、5月間一す。72年返業をよりスムーズにす る民衆に与えた勇気は、大きく沖 本土の踊う仲間のみなさんと共に この様な戦闘的労働者の行動が

はないかくコンはないかくコン

にし、それをもってアジアへの植、五・一九ゼネスト貨物の中核にない、自新味の沖縄・陸をより有効 アへの再受断の複数を粉砕する。とによって沖縄の大衆運動を圧發 けた沖縄基型の関数を扱った。 県 青は、郷四波ストを交字通り、全 全軍労牧器支部青年部、わが牧 大部に共に最後までガンパロー。 らえ、日米支配者の72年返還にか 五・一九ゼネスト真教の中核にな 4・28スト資微、5・19ゼネスるべく鳴うつもりです。 を転で固定的支持層が半減する 体ン 込、復傭牧場等の空悪建設による いったことを強闘するのは、天浪、古っ ったが故である。 と言う困難な状況下での聞いであ

| 資を持った 主端 が金品 をバラま 的な質収を進め、自星公然と質納に、戸村を落せくを合言葉に大々 制代製行の強行を環備するため

事実であります。

全重労牧務支部青年部一九七一年四月二十七日

宗派的敵対を暴露し粉砕しつつ、

めの激烈な難いが開始されてい

三里塚闘争の勇敢な戦士たちの手 幻想をふりまくことに狂奔した。首相は「民主々義」をガナり立て

「六月第二次強制収用」という決

【全國からカンパをく】・一〇日

しかし、この思い上りとペテンは

就的であるかの如く縁伝し、ブル もこれで力では勝てないことがら かっただろう」と発言、権力たる 三月二三日をもって、アルジョ

は『三里塚は再び飼いに立つ』と 欧の鋭い突撃と共に、三里塚、芝 全国の戦闘的同志諸君く と空全国に向け宣言し、陶戦体制 事実、四・六対政府中央闘争、

迎集会開催

た 仙台の地においても一

社会党反戦派演説会が開か

鮮明にした。 皮帝高評は24日新 動を指導している全学連の姿を

> もたれる 首都圈各地区集会

その総合力によって、地区においる場合力によって、地区においる場合力によって、地区においる地域を表現、更に維着規度の会成します。 「2000年代初期の会社、まず 「2000年代初期の会社、まず 「2000年代初期の会社、まず 第7825日つつある事が確認された。 たっしつしませんが、

入生連帯集会

あって、参加者は終心に発言にく大衆の注目を集めている中に 」の合言業のもと市議送令即階級の 怒りの 弾丸を 市議会へ

は区において、各地区収約争会前に、首都層名 地区において、各地区収約争会、 ・ 一 活動者会議がもたれた。

る4・28の新聞たる決型の大き

化しむけーー

4月18日には神梨川、22日に

なテコとなった。

の確立を目指すものであること。 主義のアジアの盟主としての地位 これを阻止し、粉砕する 4月大量の新入生を迎えた金 学連は、4・28闘争への決処を まびかけつつ全国各地において 一杏に歓迎集会を開催、いずれ も成攻御にかちとった。

- 英関から、日本プラント

田副委員長を迎えて開催

15日には佐賀大学には全撃連西

八十島曹記長を迎え、福井大、北陸においては24日、全学連 静岡、三貫3県10余大学の学友 第山大、金沢大師名で開催。 川崎反戦結成

神奈川大学 4・28~25・1 神奈川大学 4・28~5・1

後 半 の 報 告

本サンター反対軸側の大学のワワ 反対軸側の附進と、自治体の頭化 ・カリは 社共で観の 等たなすの語 一時で同りた巨大大橋道像全集さらかを、突破と (これ) 三次係番目 あげた。 として 結果して、約章セン ター

機の大木よねざんの土地も含まれ

仙台市騰選

熊谷同志階級的選挙戦を貫徹!

で香饌をも見つめながら『反礼』を形成し、職制、組合の桁付の中

い成果は、この局

ソヴィエト運動の削油の鉛の踏

各

統別の

先頭を青へ

ルが担い、

15ユーン的団結への違は、今そ12 動紙体の朱紫の開いであって幾度 かまな「大日本農民運動のみならず革合運 であって発度」が 面対決は市民社会の決的権利やあ いる時期はないのだ。 おきにブルジョア社会との全 ーガンの内実が今日と 武麟市護選ー池田かつよ氏当選 カガンの内実が今日ほど問われて あのた。工場

決起不組織セン別地一政治中収

コンミュ では、青年行動味、フロ紙選行隊 ならは、東爆議条令ラでに開始し ならは、東爆議条令ラでに開始し

一大進撃 「たぎる怒りを

加設大阪根本 自らの

革

労

協

結

士

| 金国反荷高評選合機関誌

見よクプルジョアジー闘いの単びやク

一の基因を

書房(横浜)等 実會(新宿)等 実會(新宿)等

全字連三里接現地行動隊 ルジョア政府打倒闘争 現代社出版部

大清水団緒小塵

で、 今日、三里塚では北朝決略におった。 ける第・次倫側以用粉砕餅金の敷 (1 株型であった相点・「一番地手・虚影技芸装の「干売締制兼工」、「大会」、大会「一郎」下区内のテイでの担点の土地に対する 区戦

〒100円で大海水一五七 「金属成田市大海水一五七 吉 吾

八日 接見制硬鐵路訴訟 原告 | 東洋大口ックアウト 粉砕 | 東洋大口ックアウト 粉砕 弾対・裁判闘争スケジュール 神奈川大学 中部八時 小西鉄道製判開像(第七】 中・東京地裁時・新島同志 一〇 Ξ

一、二〇日 都塔解放 一、二〇日 都塔解放 一、二〇日 都塔解放 一、二〇日 都塔解放 一、二〇日 都塔解放 一、二〇日 和塔解放 一、二〇日 和塔解放 一、二〇日 和塔解放 古 合

吾

村 六九年一・一木関係) カグループ 一〇時~東京 地装

房(札幌)名古屋ウニタノ長院大生傷ほか (命宗) 平和春房(広島) 八重宗書房(仙台) あて公書() 韓長時春店・大阪ウニタ(大阪) かんば書房(京都) 神田・治祥寺) 文献堂(高田糸男) 高野書店(池谷) 模利田・吉祥寺) 文献堂(高田糸男) 高野書店(池谷) 模

150円 품

成 「行動委員会の中からの党」 宣 言

丟

芸

|戦機職(解放8号66・9)

大の中の情報を報信(コペー・レス人動(新文を会の・の)カロレタリア を表現の対象を描(コペー・レス人の)、「新文を会の・の)カロレタリア とは何か(何次の・「女もの・ち)アンシス人動(新文を会の・の)カロレタリア とは何か~(何次の・「女もの・ち)ファンシス人動(新文を会の・の)カロレタリア

ア解放のために 価400円

で 登場をかちとるべく、全国三里寮 め、プロレタリア本隊の正要軍的 でした三・七製会の成果全義展せし

口

Þ

IJ

回・古月・江南小の校直」をウオ・山麓原をもっとし ・登園が原知の出・は人意識のために ・選売を開始の出・は人意識の大めに ・選売を開始を ・選売を記し場れる。 ・学に、日本のでは、 ・プロレントン本の上記を開加 ○・日本の主義の主義の主義の ・プロレントン本の上記を開加 ○・日本の主義の主義の ・日本の主義の主義の ・日本の主義の ・日本の ・

NO2 1971

革労協理論機関誌

Contract

と課

題

春闘 反合 -沖繩を結合し闘い抜け の最終局面(5月中→下旬)を

ことによって、中間的報告にかえ、B 数空五月段階の方向を特徴づける よ 源在そのなかで、七一春間の特 ス マント (の海峡 健保、矢が開場ではしからする「河景教養」についています。 一次の (の で) で (の で

新報では焦点にする戦争になして、に大手取自に対する「回答引のは さるのが多々あったにものかわらし、もあって、「応引ことの言名やス るのが多々あったにものかわらし、もあって、「応引ことの言名やス

る。例えば、私鉄総連の幹部は、 青い日、一き (=資本の労務管理代行者として

容子定しているのを知って五月一 たから、私鉄も のが、これは偏機が昨年十々なの 従来の春鶴方式では、私候は不 たのであるが、今や「不説朝 戦

単座の「後ずさり競争」によって となった。この傾向は、ここ は明多らかにしている 統一と野党再編成の動きか見なけ 第一に、労戦統一については、 その進行を見るには、労働戦線

「ける力はない」ということ

方の参加を認めるかどうかで、総評大の参加を認めるかどうかで、総評大の参加を認めるかどうかで、総評 世紀人名でゆくことになった。 人会の発足は三分見合わせ、拡大共、の戦権的勝利におわり、発起 月末の「統一発料人会」に金蘭

で機動隊の阻止線を粉砕 突撃体制をとる宵へル部隊

ーズを施行させたが、今年は全 「五ケタを見」のキャッチフ 昨年は全国金属の中区、大

| 万円以上が回答を引出しており | 労働統一と減失| 佐のみのとし | 丁円以上が回答を引出しており | 「東郷西日の」、〇八八組合に比べ、「定心でいる、社会、公師、民社 | 年年両日の」、〇八八組合に比べ、「定心でいる、社会、公師、民社 | 年年両日の「、〇八八組合に比べ、」 春朝共闘委員会の発表では、四一選、参詣遣をまって御き出すこと

14

□答にすぐじる口类に軽合路部連絡業務共興・出版労等、全会のでおしば決する必要、方針のり増加の中心は全国一般、全国機能関連、展開選集・化学同盟、建設開発を印象、方針のり増加の中心は全国一般、全国機能のそれに対決する必要、方針のり増加の中心は全国一般、全国機能のそれに対決する必要、方針の数量のである。 連高、線維共麟、出版労豪、全金 カのない中小企業がほそんどと」 関り困難になった。かてて加えて「一方円以上の回答は相場に影響」たな審難による圧力が加わらない。中心の単単であり、目結束のいう」 (の勝きが急速にすすむなど、新 川崎市長選まで勝利するに及んで

とであるが、実質的に黄金抑制がは、酢年末から予想されていたこ 一方のない中小企業がほとんどだし 野党再編—労 統一の動向 成」の推進論者)の死去、日中国 西村民社 党委員長(『革 新円 編

を を導入させないために、自主規制 別 入の必要性はなく、「所得政策」 ずすむならば、「所得政策」 の導 をという路線に進む可能性すらあ 党への路線をバク鉱し、議会主義 ロル にすぎず、日共はますます都市小 さ は密射現象を一時的にくいとめた 相不利な局面が進行している。

春間共開脱退などのうごきを吸め 当面不可能といってよい。 ないかぎり、野党円輪のうご言は 電機、鉄鋼、私鉄、日道、全鉱

経調が、統一地方派におけ

け 景には次のような「遠反」運動を 社 はかきたてているが、七一番側が 一定の闘争をつくり出している背 のでは、一定の闘争をつくり出している背 がは、など、生活を見が をつくり出しているのはなぜか。

地闘争の組織化三月ー四日 議員の発言、三月七日の 動に結集した労働者の、 一月の育労研集会決議、一 第一に、総証青対部の運動は、 からの闘争の組織化…… 春間・沖縄連帯独自行動。そ 新たな臨時工、中小企業を開 反戰青年安員企選

一当然後退せざるをえない情勢にな それをまざかえずには、労戦統 運動の再建を、戦闘的青年 環結以来停滞していた総評**者学部** 会へとすすんでいる。 の主導機の下に再建しよう

表 日本でも一、二の力をもつという は合であり、産薬別組合としては の担合であり、産薬別組合としては の担合であり、産薬別組合としては 一定の終着駅である。

リ 全日海において南波佐閣体的 の底成指導部のマンネリ化し (こら) 式の敗北を示しており、民間の

っ

「造反」 時代の到来

大会の落足は当分見合わせ、拡大 をして春間中は一時間が休寒と かわらず、中小企業を中心にして いうことになり、七一春間、地方 ストライキの境力、エケタイト

5 調印実力阻止! 反合賽關勝利! 主金場 13 学生総決起集会 東京地区反戦連絡金議/社會同 牛込公会堂/5時半

組合(同盟)の汽船部会中を ② 全通宝確委員長の退陣へ 考えないわけにはいかない おける執行部提案否決― はじめており、関鉄二二万五千人は、環場末端からの瞬いを組織し 第四に、反驳附争か問った部隊

第三に、全選、海貿組合などの 動き金示しており、今後民国との できた て、最終的には、昨年十五〇〇円 選択事 電機は松下の回答一万円弱に対し 西北京村、新川田田の町半なみ 円北京村、新川田田の町半なみ (定昇二〇円アップ)になった ことから、急感に動き出しており 今後の春朝の筋肉につ

熾烈な闘争が予想される。

そして、合化は、五月中旬まで

5・19沖縄ゼネスト連帯!「返還協定」

の革命化のために」 の訂正について

大阪 一切の田 (七一号) 八段資本の労務管理を労働組合 解離粉 砕く配帳、出 向粉 ・ 一切の無顧粉砕く→ 一切の

四段 五段 六段 みなかでしか/政治者→→ 政 取り組むのでしか→取り組 神/ ななかでしか/歌治春☆→ ななかでしか/歌治春☆→ なは、日共、戸別会談→日共、庭 別会議 と変薬人口のわずか○%→ を変薬人口のわずか○%→ 会運動

六段 協定的 にした・成功をテー (交渉権も合む) →

微を適じて、我々は、来たるべき 衆的共同行動機関としての反复連 これらの闘いの全力 参挙げた實 っている。各地区プロックでのケ

- 1-11/3多の非确定からとるた。衛力整備計蔵が打ち立てられていめに、反軍闘争の更なる路線的推 る。

大

俊

五段 四股 **茶**類/ 機組練

き茶館

四

(本七三 国労民同運動の対応

号

像を進じて、我々は、薬之るべき、参の共同性動機関としての促進 ・物を勝利に向いた見なる発展やが、特金機の形成と、3の推進戦とし ちとって行くことが関われて、ソレエ・漁場の受験として もとって行くことが関われて、ソレエ・漁場の受験として の公然・非公然や買いた新聞なる る。

らの道区運動は、全域労、日本軍

運動とはちがったところから起こ たらいうした。 は異質的には個かでしているのものではなく、条件側 の反応にはたかならない。 は異質的には個かです、他様が大きないではなく、条件側 の反応にはたかまります。 は異質的には個かです、他様が大きないではなく、条件側 の反応にはかならない。 は異質的には個かです、世帯な大きないないである。 重化学基幹産業の本来的臨時

工の運動へと発展する可能性をも て反合=反戦の番割を組織し、何 上げて闘って合た部隊は、今や七 に発すしている)と対して、 こうして、七〇年闘争を全力を かわらなけれ 金数線におい

還協定粉砕のストライキをも スト実を組織し、5 19

五月一八日に予定さ

中で「COCCEMIACE」、大工事事業をあるから、 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、大工事事業をあるから、 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、大工事業業の場合のできた。 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、大工事業業ののできた。 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、「大工事業業ののできた。 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、「大工事業業ののできた。 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、「大工事業業ののできた。 「COCCEMIACE」、「COCCEMIACE」、「大工事業業ののできた。 「COCCEMIACE」、「大工事業業ののできた。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできた。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「大工事業をのできたい。」 「COCCEMIACE」、「COCCEMIA って闘い拔け!! 民間の相類追随できま 化のとりひきが行なわれ、問題は、国鉄の格差質金 | 百一日に予定され

会員のでは、会員のできた。会員のできた。会員のできた。会員では、<l であるが、これらを労働さ回数全 にゆく力は、すでに秘討にはない な機能が新しり労働運動の再生 を開催が新した。 た気行動で新砂し り、今や明確な展現こそが求めら

郷末端から政治権力の中枢へと関 翻的労働運動の利益の展望は、歌 くて、現実の運動に根ざした、戦
あれこれの見通しや戦権ではな

 お赤労働者を中心とした戦闘的労
 大参の場合で中心とした戦闘的労
 大多国的定議的に「労働者関系の
 日指して関うプロ
 大多国的に対する闘い」で
 大多国的に対する闘い」で
 大多国的に対する闘い」で
 大多国的に対する闘い」で
 大多国的に対する闘い」で
 大多国的に対する闘い 機者によって担ってゆこ 「77客闘と労働組合

スクラップ化の中心である赤字線対策の処理として、当局の金纂区巻にかけて急ビッチで提案されている。四五年九月十一日の答單は **関系するためソフトウェア会社への資本参加しより部外能力の活用** を当す。 の部外能力の植物的治用、喋られた妄興で効果的システムを さす。 の部外能力の植物的治用、喋られた妄興で効果的システムを に及ぶ素質分析(道路交通との代素関係の密着化の係数算出) こうした関鉄経営のシステム化にむけた台連化提案が昨秋から今

る、となっている。これを決けて今春三月二三日・埼田樹茂、及びる、となっている。これを決ける後、頭疾、数漢な狂の三者が指責化とする。 の国数数据参加力協合は、調疾、数漢な狂の三者が指責化とする。 の選集を会国 **喀奴保守近代化計画等を中心とする今年度実施予定の合理化事実が** て三項目に集約される実施計画が発表された。①国鉄直営の基幹線

財政再建計画の 目 狙いは何

生産性向上運動と労務管 国鉄合理化の現段階 か(六六号)

S(経営情報システム)を確立する事により国教合理化の一挙的受需要の逮領な予測とそれにもとづく販売の効率化を中心としてMT 製造動に直結させ、 れることに展応したものである。この計画は、服客および貨物輸送 は旅客部門の座席子約制度という部分的台環化から貨物輸送および ーションによる一貫管理(工場ぐるよの台理化)と同時にこれを経 の長期計画」を発表し、一労働集約産業から接踵政業へ一の脱皮を これは七〇年代の企業合理化が生産工程のオートメ 財政内建計問前半の合理化の特徴は経世情報システム

名古屋駅におけるホテル雄設などが突縮されつつある。の貨物販売中で独立採算性を貨物する形で着手され、高橋局での駐車場建設、 。存在予心ため現時点では国教と反射の天団変要会社を設立し、この レスを含めた総合販売レステムの調査。この計画は長令この側裏が レンタブー、駐車場等の関連サー 業務の自動化システム。 地域開急行列車、フレー コンテナ単に関する選挙甲し込み及び到着予報の自動化にむけ メーネットワークの徹立、中央コンピューターセンター

育成念めざしている。国鉄財政再よりもます労働組合対策を重視し ①生盛性の向上は完極に於て展用空増大するものであるが、過速的 運転長、炫鶏掛巻含む末海職剖層の推復拡大をテコとし 事によって(生)運動は職場に持ち込まれたのである。 場に帰った部分により、これがグループ作り、学習会全組織化する 学聞-地方の学聞での合宿による集中訓練(業務研修会)を経て現

でなく哲学である。」とするドラッガーの論理までを説明するだけから始まり、マグレガーのX・Y理論を展開し、「労務管理は技術 でなく徹底して討論させるのである。そして、この生産性運動の成 のといる。(成果のど のとさる。(成果の公正配分)右に見らむる生産性運動の三原則か、労働者及び消費者に国民経済の実情に応じて公正に配分されるも 合理化は社会発展の原動力であるとする教育が施され、これに反対 方式については各企業の実情に即し労使が協力してこれを研究し協するものとする。 (雇用の増大) ②生産性向上のための具体的な かわらねばならない。自分の生きる道を見いだした我々は確固とし まとった議師によりローソクの光りの下で「今日から誘君は生まれ 修が系統的に行なわれるのである。この研修の最後にはガウン冷 するのである。このようにして、生産性の向上=機械化、近代化、 **監接その他により失業を防止するよう官民協力して適切な指数を誘** の生産性向上の諸成果は経営者

より一合理化反対解争がベアの条件となる形で一民間の団群はます度の中で徹底した差別受配、不当号動行為支撃がつらぬかれる事に環であるとして鉄労=備:配合の優遇が計られる。こうして任用側 ばならない。春聞ベースアップと引きかえに合理化提案が次々と派とのような(生)運動が見事に遷選する国労の団結が問題にされれ 労は宅金共闘体制にむけて組織体制が計られているが、ここでも助における青空闘争による公分益内ペア格差の数回にむけて国労、助

では、大学などのなどは実施を学生に通信する。 だいしゅう かいいかがと思いながながらなった。 一下では、今日は前日より、明日は自日なりをとなった。今日は前日より、明日は自日なりをとなった。今日は前日より

(「生産性運動とは向か」) 人間の進歩に対する信念である」。

スト権が扱うコントで指導した機能が必要を発展している。 はラオス・本年1月十五日付き権政の(中)地域では、1987年の東京の東京の日本がは、百良公司です。 は、1987年の日本の日本権の(中)地域では、1987年の日本会社に、1987年の日本会社になる。 は、1987年の日本会社には、 要の選択が出り金融機会が入して発達られている。このような事一環境の場合に対する原状と顕著、既未の素物が出した対して、七〇年代自総心の眩瞼類は国がに対する事業は確保末の養殖が定じた日経境、日末生産に来郷の重発機の下に、大〇年日のい、七〇年日の日本経済が開始に関いる漢字を平安寺と記する歴史を記されていません。 て任用制度による差別支配、不当労働行為を生み出す過差においても職場闘争を一切組織指導出来ず団体交渉、第三省機関へ 労民間は如何に対処し、どのような闘いの展望冷揚楽したであろうか。(生) 運動(生産性向上運動)が労働指揮権の総操をめざし

理化にむけた近代的身分創度の確立(帝国主義的工場制度の下にお

じる新たな差別と支配の体系)である事を見抜かねばならない。(生) 的に把えるのではなく、それが労働者の現実的、直接的、具体的利

響を見据えた近代的労務管理であり、資本集約旅祭としての国鉄台

71 春闘ける国鉄労働者の任務 国鉄産別 黒 健 审

国鉄合理化の現段階

の能力に応じた労働力の最適活用を意図するものである。 近美職、事故継、要能は、組合運動経験等ーや指分化して記録して 却令、挙歴、質命、経験年数、特殊技術、家族構成、通勤時間、年 の作域やも同時に行ならものである。一人一人の労働者の全等欲ー による級適要異配置、さらには限定された配員の最大限利用やめご 産薬に参づく労働力配置、即ち部課長制から事業部制への改変をめ 答にとどまらず、労働条約産業下の便宜した要員管理から資本条約ならない。 、 電解機構入による屋務掛の局級は賃金計算業務の機械代 場の弱組械(ライン部門)の全面的解体と刊稿をうながすものに他 敷養養了相点まで入谷生務めなり等のトラブルな養養している。 継続人化による常健康員、新しい専両核布方式による核査総員等の 設置も営業所体制の新たな展開ー販売の効率化と流動的労働組織ー すプロジェクトチームの製成にむけて準備するパーツナル・データ さず新たな台頭化段階への突入を意味している。それは丁官の導入 また、三月二〇日妥結実施された東京商品の要品機飼センク 機関助士騒止に伴なら列車乗務員の過程

つつある。「機勝労政」という形で表現される国教当局の攻撃は何ける管理者の延提を終了し、今や混業職員を視野に入れて展開され は、「翔ら規則是作り」を宣言し縁戴恵任と同時に全国の規則長と 新八機群の紋趾による底第十十官屋への賃金上の保障を与えつつ 財政再建一台理化の推進をめるす 三、生産性向上運動と労務管理 いる。国鉄財政再建の実現を背負って登場し た生産性本部主催の生産性機能の受講 ながら、合理化に協力する労組の 。国鉄当局の攻撃は組織系統にお

う民間運動こを崩壊させらねばならない。 ア作業が

富塚企画部長自らの手により行なわれている。

また今春日 ②職員の養成、教育問題で帰向教育(人格形成にかかわる教育を

理にもの自主的運動」へと「発展」した目標設定グループの形成が団結の解体=解決陥力の程失による競争の中から「労働者の自己管 運動は護務研修会の参加による思想改豪によどよらず、労働担合のつある労組に見切りをつけ、乗権、業能単位の、よらして、(年) 計られるのである。従って我々は(生) このような情況から労働者の悲惨と苦痛に対し解決能力を失いっます形骸化し、労働組合から顕外される多くの労働者が生まれる。 運動空出想攻撃として一面

①提案制度と減見発表会

がほとんどであり、また日曜日も休めるとは限らぬためレクリエー(2ヤング・トラベル・メイト運動 国鉄においては男子をけの最易 トラベル・メイトという旅行サークルを設置させその中で欲求の本ションによる他職場との交流の欲求が喰い。そこで当局はヤング・ り、これに対して戦賃金計目中タオル、ボールペン等の表彰全行結職剥奪で提案(作職改善、環境美化、接来態度、増収対策)や募当局はこのような労働者の自主的年産性運動や育成するため、技当局はこのような労働者の自主的年産性運動や育成するため、技当局は、 等のデー

これは労働者個々人の期間の実現が企業利益と面結するものであ 地区空対象とい

足を計りながら「旅」を達じて観光開発(増収対策)を行なおうと

③国鉄取形者の回摘教者 転換造成空報務とする総務部人事課書成係が(生)運動の統膺を

降各局レベルで設置されている。この任務は単なる訓練教育から、なりんで労務管理の主轄となり、この総力開発課は四五・十・一以なりんで労務管理の主轄となり、この総力開発課は四五・十・一以 能力主義戦弾に避合する技術力をもった高度な労働力強度をめざす

然屋の紹介を良いだす「生きがい世界側」の発見しという軽減をもけばけなっている。まずそれは年齢だされているのを含みつつ、むしろし近代化・合理化に自己のがはないだけてのものを含みつつ、むしろし近代化・合理化に自己のでは、まずそれは年齢でそれが進動として実現する事が行なわれている。まずそれは年齢でそれが進動として実現する事が行なわれている。まずそれは年齢であれば、 象とした広がりで持った運動として高時、大阪房を中心としてかなりの自主的組織を与み出す。こうして学習グループから〇〇会が出って、この学習会が一定程度の影響力を持ってくるとそれは議場単って、この学習会が一定程度の影響力を持ってくるとそれは議場単 りの組織化があらわれている。 また、さらにそれは花坂美化グループ、ポイント階層グループ、

合いながら運動をすすめて これらが局単位で場合して相互に競争し

ï

た運動院録(基本要求先行学院、賃上庁と参照化のパーター)につた運動院録(基本要求先行学院、賃上庁と参照化のパーター)につかい、本人では、本人では、大学院会の中においても、(年)運動を生み出した。 右に見て来たような合理化の現民階に即応した〈住〉運動攻撃に 国労民同運動の対応

□当局の不当労働行為のご規を行ないこれを本部に集中して国会関係会根として持っている事を見破を得まして国会ではないとなったとよっます。 の場で追求すると共に、公労委への掲訴を証荷する。 (生)が労働者の直接的利害

る。このためには号指令に基づく反教パージにむけてのリストアッテルをはる事により舞う部隊の労組機関からの非除を狙っていッテルをはる事により舞う部隊の労組機関からの決組による民国幹部の生活保障をあざして、ハネ上りのレ 名による青年部の独自活動(反戦闘争、能勇実力闘争)の圧殺を担員会への青年部代表の出席を求め「全体の討議による方針決定」の 不当処分攻撃がかけられるのである。今等の終罪大会、拡大中央委を住むものであるとして組合機関に定くるバーラ、組織裁制処分が単分圧むものであるとして組合機関になるバーラ、組織裁制処分が単分に対している。 んとしている。しかし、この頃の銀鞭変撃は金国的に現出している。 質しげと台頭化のパーター医療の原在化の中で、便当の物系の自動が動物の別報告をよ助教できず地々ダイナミックに近ち台頭化をおける。 はILO離雛将従側度への移行をめざし、青年部専従の剥奪が 糖の団交路線を歩む中で、これに対決し職場実力闘争による労働者 中止する)中止の確認事項の締結。等を行ない組織分裂を防止で 自治労、公労 いる。沖縄における一切の問題をた全重労、 関係に改会闘争へと発展させてをた全事分、 関係に改会闘争へと発展させて

ったものであるけれども、いつ、守るために

何に行 なわれることが決 定し

ン主・むしろ基齢プロレタリアートの組 日の一十帯受け取めつつ関ってきたし、 ・れていく労働者・人民のエネルギ

と、<u>を業合理化の下で切り持てら</u> る連帯や場げてきたし、護り返え に、を主情がある。これとの新聞た 代においても、後輩国際級闘岛の

国主義的工場制度のプロレタリアは、資本主義の最高に基展した帝

「本工主義」と「下層労働者

定していく傾向にあるが、これは自己否

の酬いにおいて、学生の社のかに 超因 している。我

と温関もたてておかなければなら

会党の関節的難談 や推進するこ プレタリアート独裁/ 樹立に向げて大柴産主的前衛の産出、及び草一刀・ノタリアート独裁/ 樹立に向げて、コミューンとしてのソビエトと。

運動を踏戦線を結合し展開してい

組合)の中に見据え、常

空対象化し、その根拠

II 労働者階級の本質的解決 | 義の二 ヘプロレタリア解放の類的 的学生運動の住務は何 の背命 動の機築と社民的分派闘争を中心的独立を問題にし、行動委員会運 期における 結は「自由」と民主主義的諸権利

藤 結合を欠落すれば、プルジョア的中間層、最下層人民は、これとの

精と制約への闘いや階級的に受け放のためにも、他階級他階層の否 等のものではないにしる)にあり 従って労働者函級は、自己の解 それと塗帯し "獺的エネル 深化し、煎着的に調

や分薬や感えて形成することによ あるが故に相互の概条に変る団結 **手段、血級等、類的な一切のもの** 処分する「自田」と和立を

しかも、それは、スターリン主義 「自由」、自らの労働力令自由に工者における橋いや構築すること プロレタリアは、生産手段からの

芸具等を解決さず、資本主義的に 的芸別性、対離的身分制、肉体的 的芸別性、封建的身分制、本 っていかなければならないのであ さらに資本主義的分類は、 4 . 25

合間の人間による意見、抑

適をもっているし、断問として推

題と離れたところにはありえない。 ようなプロレタリア運動総体の課 「なだれ込み」反・非労働者的純学生運動の戦略的展望だ、この 非・無党派活動家の人民主義への № <学生運動の戦略的任務>

〒の展開や踏まえ、小ブル潮流 | の会関的な教育、反ファッショ館・領域の拡大による団結い。 | 様は、早大闘争以降特に総予88年 | プロレタリア運動と衝い。

現実の側約の突破には無効なもの 的根拠を欠落した「侵略に加担し でしかない。結局、実践的、実体 ものといえるだろう。70年 放に70年代的 (プロレタ

を越えて、その背後に不可 ありプルジョアジーは個々 程において先行的に展開さ

くことに対する爆発的決制

第二に、労働者階級の階級的油 リア革命の前進基地を建設すると

呼びかけ文

合して、職場における美別交配を 優破する闘いを発射点としつつ、

総会に結集せよ! 自治労働運動研究会

さた。この激闘は把え

育過 | 奪取を目指して聞い抜きプロレタ

が、差し、コミューンの下への教育の に、学内外の労働者との連帯を推 ので、学内外の労働者との連帯を推

活自体における直接的矛盾との闘

第一に学生の教育通程、消費生

は 芸プルジョア政府(アルジョア権 のフアッショ化、産薬合理化(産 V のフアッショ化、産薬合理化(産 V

集中的任務

「パリ・コミューン 100周年と

我々は何故に今日、

の現実と闘

議会に関るのか

アンファイス 取扱い 現代社(05)812 7987 現代社(の5)812 7987

党 者

高

見

革労協出版部

絶賛発売中ノ

▼・五~六月の階級状勢の特徴と

(以中次号)

つけてきている。 これらの ま 第三に、一、二を基礎にして、 へ 的批判を側面的にやり切ること。 (技術 (近代化・台理化) への階級

る国際分類体制・円プロック機) ジア太平洋経済圏(日帯を盟主 命的戒蔵令をひざつつ浴動した七

きつべき課題や果そうとする方質であ り、従ってそれは、24時間や買いての 国民統合という収集の一環である。

徹という彼らにとっての至上命令とも は、アルジョアジーの政治的支配の質に表面化した裁判官の再任・任官拒否

と同時に、アピールを高家とだ。以下 アピールを記事とで、この報酬を 受けてなら来りを表明を担いし、 で、全国の学生ならとが報書・1位 は、研究の報酬を担信というです。 の選供と思いるの数字に担信して の選供と思いるの数字に担信して が好きく機能の場所をよう。 一種が同

〇年安保は、反革命階級両盟==7

の形成に向けて、その元成過程が

戦級の一翼を担う学生選 は、プロレタリア運動と 政府・権力をめぐる公然が 戦空前後とした諸階級・諸

あ統一

イデオロギト・ブルジョア科学、更に支配者階級の幻想的共同性

難せる自治労のすべての活動家の

七〇年六月、全日本、全アジア

する合理化に対決し、自治体労働 さんく 自治体に働く全ての労働者の皆

働運動を粉砕する。

ど、帝国主義労

日

売中

物理力化することに対決する。 働者 (予備軍) 内部から中間層(

(小ブル諸湖流との思想的実践的

に規定された服界というこれ この問題は、学生の社会 言論され、労働戦線への移行が出 B その先頭を飼い抜くこと、それを、 て落暗級、諸断屬の聞いと連帯し、 ブロレタリア統一戦級の一翼とし 通して彼らの階級的秩序付けの側

D型製的豊 I 立場にたち、様々な戦線の配置に

第四に、以上の聞いと団結の形図的任務を果すこと。

自衛隊の帝国主義的改綱は、軍事 小西三曹の反乱が鋭く祭出した

国法的地位協定と共にアジての入管法国会再上現は、 的統治機構の帝国主義的改綱 入管体制の帝国主義的改御 して進行している。

れへの全国的反対運動の中で任 景とした再任・任官拒否は、そ とめようとする「司法修理所終

る開始

青法協へのキャンペーンを背

青茶品へのトナンドレンをデーを育るす者=8日に、これを入れ、、は決的に一切の政治活動の表現任・任官拒否=ついに阪口君罷免へノ、、問題へ再確立するため、自民党

れている。そして裁判官学支配

として打ち出さんとじている。

司法におけるレッドパージの公然た

再任・任官拒否にプ

U

的鉄槌

の行政機構の帝国主義的改細が国 の工場化=『新全総』に基づいて際分類体側の心臓部たる日本全土 注触の労働者の国境を越えた団結 対対る国家アルジョアジーの戒 画時に、国内労働者階級に対す

 で、教育制金融に向けた関が、正を選手を表す側になるる親 = 的文配体前の下へ位置する過程の下、教育制金融和に向けた関が、正を進して変化を定する反革命法定は、である。
 プラフェルできょう。で、 推 それは文字通り帝国主義プルジョアジーが地域の労働者やファシー 業務の行使を強要し、身分削、動業務の行使を強要し、身分削、動 まさにそのために、自治体労働 事の秘密」としながら、青法協力の裁判官任官担否を決定し 会員が理由の一端であることを

共同し、連帯し、全国の仲間と結 関的革命的労働者階級の無限の発 関の事務を対し、地区の労働者と でいる。(中略)

72年刑法改悪への飛躍・国民統合を

粉砕せよノ

の自己目的化反対者」「検察官

破防法五被告奪還報告集会 破防法体制を爆破せよ

四月二五日、首都九段会的に於1 判闘争被占団、家族会、さらには い切ってきた同志を先頭は、各級レタリア統一戦線の一既として担 心に、法学系の学友等が結集し、等々の進行をあって打ち間められて、 弁護団長井上正治氏の隣領の後

意告団五氏の決意実明を受けて、

あることを、我々は繰り返し提起

否、6人の青法協会員をふくむ 口君全稲免し公然と弾圧を開始 丁式」の闘いに対し、ついに収

した。最高裁は3・31、青法協

反弾圧戦線の結合・発展を推

が読み上げられた。 の万向性が提起された。 に対決する人民の難いの護済をも 赤軍・京京 強してきた。 後藤昌次郎弁護士の司法をめぐる 80塩見示重永騰美からの塔見乗 本格的にファシズム国内体制へのなお、破防法被告として狱中に の再編に手をかけることをもって

るべきものであるが、茂渓の間 岩関している。そして、短事器 この軽乱影楽原にもる不当弾 人民がかかえている団璽の立つかさり鬼事基地は孝宏され のシレンマから夜じかそうとし すものであった。 る。沖縄返還さばしれらな 決、そして、職場・学際に吹き荒実は、東大統一公判、欠席実刑判

直接"裁判"という形態空とっ

「支える会」運動の耐級的共同戦

去を全面にかかげ、軍事基地支 の活翻のなかから、軍事を

4. 26

〇・一八首相官邸占拠鬪争公判

での舞いのなかで指導部に対する多くの疑問と悩みやかかえて 言動してきた。沖縄の労働者人 一言動してきた。沖縄の労働者人 一言動してきた。沖縄の労働者人

冲

、繩労働者の苦闘

返還

から解放

朝護空瀬行させ、起張於朗誌に抗 神事人抗議の中空、検事に起訴決 特事人抗議の中空、検事に起訴決

■した江原「被告」を返廷にし

進行し、弁護人の再三の入廷要求 午後の公判は、欠席裁判として 空出し、証人調べまで融行した。 ・閉廷要求を無視し、更に自主認

ール協議会を中心として

| 斉川に係属しているグループと| 家においても、 | 迎へた自主器

第2回藤濱会は三百人を暮える梨日、井上正治氏を迎えて開かれた つめた大衆運動の拡大な形成をか 利への転化に対し、刑法改悪をみ ちとることが確認された。

が開かれ、同時に4・28闘争への 学自治会による井上正治氏の護護 ても、4月26日、学生法学会と全

■現代社でも取扱いま

各戦線で反撃を開始

4・28闘争へのステップとしてい 司法の核心が確認された。同時に くことが、法学部学生会によって

プロレタリア統一戦線独自勢力を免粉砕の闘いを、国民統合運動が 再任・任官和否粉砕、一 司法修習生と、司法労働者との連 帯空勝ちとれく闘う弁護士への監 **阪口岩部**

三・分割公判を強行 まれる在日外国人はその中で、 5一度国家の下へ統合し、戦争われた人々、収容所へたたぎ込 は、生み出されてくる権数令も

とファシズムへの道を含りひら

沖縄返棄器定護印粉砕へ向げ

青法協に対するパージを許さず

全国で闘い空押し塩めよ。 闘う

な姿と安保の下突撃する帝国主義 聞い冷運めている。 これをうけ、神奈川大学におい

都交京の地においても、帝国主義また、九州大学においても、帝

、戦争・司法の帝國主義的改織粉砕! 会だ前に、法ゼミ・サークル、 会だ前に、法ゼミ・サークル、 の文学に反駁を開始さよく せよく 全政治犯を即時釈放せよう する帝国志義司法に巨大なスト て井冷もって答えていく討論が確 全学連弾圧対策部 われ一人のリープクネヒトにあらず

と革命の展望(仮題) 滝口弘人著(七月下旬刊)

高 見 出 版 渋 谷 区 神 南 1-9-7 丸栄ビル8号 TEL(462)0227 振替東京113046

日本労働者運動

中原一四5版・四八〇円(〒三〇)

活」の諸問題

共産主義「復

既刊 好評改訂重版

な労働者運動の歴史から何令数別として な労働者運動の歴史から何令数別として なが一着さ革命戦士へ

大衆闘争からプロレタリア闘争へノ軍・1 拠点政治ストと「根拠地」運動/6 直接的せよ/4 反戦青年委員会の組織的展譲/5 12闘争の教訓/2 関わざる指導部をの ・ジと社会党の没落/3 社会党江田論社会党『平和革命路線』の破産/2 反 ス前進せよ/3 労働者反戦派の結集に成功

戦排除の社共を解

入党から六七年にいたる歩み/Ⅱ・1 目次 序 新たな出発に当って/1 m

本書は、「平和と民主主義」という般後社本書は、「平和と民主主義」という教後社ない。自立したプロレタリアートの非流を形成ら、自立したプロレタリアートの非流を形成である。

四六版・五八〇円(まる)

圭 司 著